

各 位

会 社 名 H e a r t s e e d 株 式 会 社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 福 田 恵 一  
(コード番号：219A 東証グロス市場)  
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 高 野 六 月  
TEL：03-6665-8068 (IR担当)

## 東京証券取引所グロス市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2024年7月30日に東京証券取引所グロス市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお申し上げます。

なお、2024年10月期（2023年11月1日から2024年10月31日まで）における当社の業績予想は、次のとおりであります。

また、最近の決算情報等につきまして別添のとおりであります。

(単位：百万円、%)

	2024年10月期 (予想)			2024年10月期 第2四半期累計期間 (実績)		2023年10月期 (実績)	
		対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率		対売上 高比率
売上高	153	100	△55.6	153	100.0	344	100.0
営業損失 (△)	△1,965	—	—	△720	—	△1,459	—
経常損失 (△)	△1,798	—	—	△719	—	△1,456	—
当期 (四半期) 純損失 (△)	△1,798	—	—	△720	—	△1,473	—
1株あたり当期 (四半期) 純損失 (△)	△109円09銭			△58円69銭		△106円81銭	
1株当たり 配当金	0円00銭			0円00銭		0円00銭	

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成していません。
2. 2023年10月期 (実績) 及び2024年10月期第2四半期累計期間 (実績) の1株あたりの当期 (四半期) 純損失は期中平均株式数により算出しております。
3. 2024年10月期 (予想) の1株あたり当期純損失は、公募予定株式数 (1,801,700株) を含めた予定期中平均株式数により算出し、当該株式数にはオーバーアロメットメントによる売り出しに関する第三者割当増資分 (最大270,200株) については含まれておりません。
4. 当社は、2023年9月15日付で普通株式1株につき800株の株式分割を行っております。上記では、2023年10月期の期初に当該株式分割は行われたと仮定し、1株あたり当期 (四半期) 純損失を算出しております。

## 【2024年10月期業績予想の前提条件】

### 1. 当社の事業内容

当社は、世界の死因の第一位を占める心臓病にて、「再生医療で心臓病治療の扉を開く」をミッションとして、心臓病の重大疾患のひとつである重症心不全の抜本的治療法を目指した心筋再生医療の事業化に取り組んでおります。

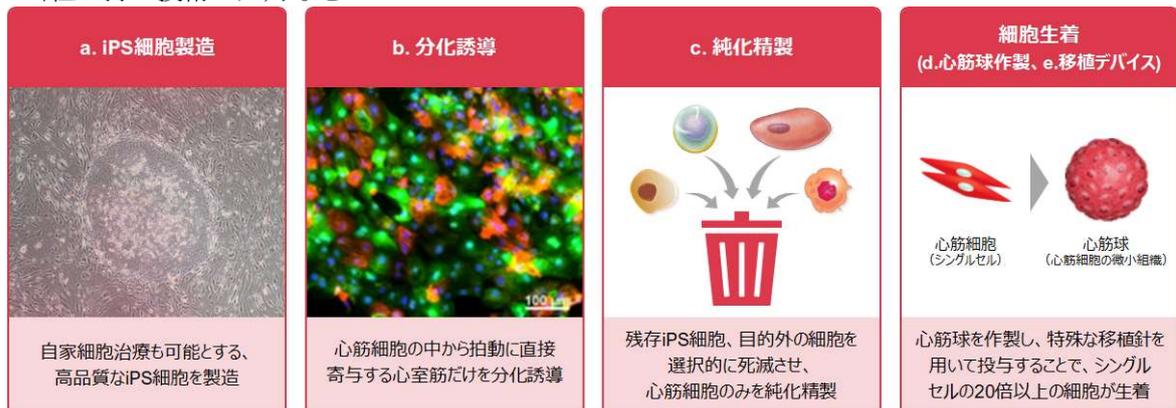
心臓は、全体として筋肉の塊のような構造をしており、1分間で約5Lもの血液を体内に循環させるポンプの役割を担っています。一生の間には40億回以上も打ち続けると言われる心臓の拍動は、心臓の筋肉（心筋細胞）の自律的な拍動によって支えられていますが、ヒトは壊死した心筋を元に戻す自己再生能力を持っておらず、加齢や疾患などによるダメージで心臓の筋肉量が徐々に低下していきます。心拍出力が低下し身体が必要とする血液循環を支えきれなくなり様々な心臓疾患が進行すると、やがては心不全となり、最悪の場合には死に至る可能性があります。

当社の社名は、当社が開発する他家iPS細胞由来心筋細胞の微小组織「心筋球」がフウセンカズラ（英名heartseed）という観葉植物の種に似ていることから命名されました。その心筋球が壊死した心筋細胞の拍動力を補う「心臓の種（heart seed）」となり、重症心不全の患者さんを救う事を願っております。

「iPS細胞の作製」「心筋細胞への分化誘導」「超高純度を可能にする純化精製」「移植細胞の細胞生着率を向上させる技術」など、慶應義塾大学医学部にて20年以上の歳月を費やして積み上げてきた独創的なサイエンス・知財を元に当社は2015年に設立されました。心筋細胞による再筋肉化

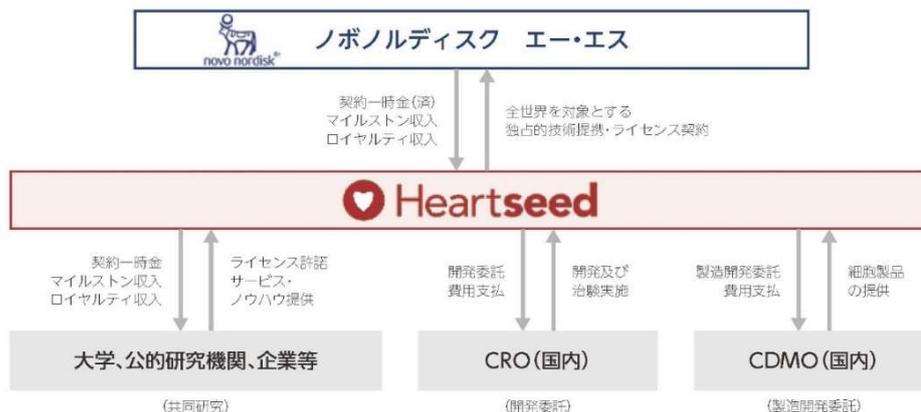
（Remuscularization）には世界中の研究グループ・企業が開発を進めておりますがまだ実現されておらず、当社は本治療法の世界初の実現を目指しております。

#### <当社が持つ技術・知財など>



当社はメインパイプラインとして、健常人ドナーから取得したiPS細胞をベースにした、他家iPS細胞由来心筋球による再生医療等製品を開発しております。また、グローバル大手製薬企業であるノボノルディスク エー・エスとの全世界を対象とする独占的技術提携・ライセンス契約は、HS-001やHS-005を含む他家iPS細胞由来心筋球（細胞株、投与方法、適応症は問わない）の日本以外の全世界における開発・製造・販売権をノボノルディスク エー・エスへと付与する一方、国内では当社が製造販売権を保持して、両者共同で商業化（co-commercialize）し、日本国内事業に関する収益を50：50にてプロフィットシェアする事業提携スキームとなっております。これにより当社の事業収益は、日本国内で薬事承認後に取得する収益に加えて、導出に係る契約一時金（2021年に受領済）、日本及び海外の開発進捗に応じたマイルストーン収入（一部受領済）、並びに海外での製品上市後のロイヤルティ収入及び販売マイルストーン収入から構成されます。契約一時金および各種マイルストーン収入は最大で合計598百万米ドルとなり、海外で販売開始後は、海外年間純売上高に応じて漸増する1桁後半～2桁前半パーセントのロイヤルティ収入も受領いたします。

< 事業提携スキーム >



< 製薬企業とのパートナーリングにより発生する収入 >

※契約一時金及びマイルストーン総額最大598百万米ドルと売上に対するロイヤルティを対価とする契約として締結。

契約一時金	共同研究やライセンス許諾時に一時金として得られる収入で、契約締結時に受領済。
マイルストーン収入	開発マイルストーン、承認マイルストーンと販売マイルストーンに分かれる。 a. 開発マイルストーン： 当社開発品の国内外の開発段階ごとに設定した目標を達成すると得られる一時金収入。 b. 承認マイルストーン： 当社開発品の薬事承認を達成すると得られる一時金収入。 c. 販売マイルストーン： 当社製品の海外上市後に、売上高に対する目標値（販売マイルストーン）を達成するごとに得られる一時金収入。
ロイヤルティ収入	当社製品が海外で上市された後に当該製品の売上高に対してあらかじめ契約によって設定した一定割合を得られる収入。

2. 当社の見通し

当社は、現在重症心不全に対する再生医療等製品を開発しております。現在メインパイプラインであるHS-001（他家iPS細胞由来心筋球の開胸投与による治療プログラム）開発の為に臨床試験LAPiS試験を実施中で、本治験で対象とする計10例の患者さんへの投与完了に向けて治験の組み入れを行っております。また、同時に数多くの患者さんが将来活用できるようにHS-005（他家iPS細胞由来心筋球のカテーテル投与による治療プログラム）については、治験実施に向けた準備を進めております。HS-001及びHS-005の開発については、日本は当社、海外はノボノルディスク エー・エスが担当します。更に、次世代パイプラインとして心筋再生医療のオーダーメイド治療実現を目指し、自家iPS細胞由来心筋球の研究開発も進めております。

コード	投与細胞	投与方法	対象疾患	治験主体	地域	研究	前臨床	臨床治験	承認申請
HS-001	他家iPS細胞由来心筋球	開胸手術 (冠動脈バイパス手術と同時)	IHD※1	当社※3	日本			LAPiS試験 Phase1/2実施中 試験データを以て承認申請	
HS-005	他家iPS細胞由来心筋球	カテーテル (ノボノルディスク製カテーテルを輸入)	IHD	当社※3	日本			2025年治験届提出目標	
			DCM※2	当社※3	日本				
			IHD	ノボノルディスク社	海外			2023年当局相談開始済み	
HS-040	自家iPS細胞由来心筋球	開胸手術 / カテーテル	-	当社	未定		AMEDの補助金を得て開発加速		

※1：虚血性心疾患を原疾患とする心不全 ※2：拡張型心筋症を原疾患とする心不全 ※3：当社及びノボノルディスク社にて50:50のプロフィットシェア

以上の結果、当社の2024年10月期においては、売上高は153百万円（前期比 55.6%減）、営業損失1,965百万円（前事業年度は営業損失 1,459百万円）、経常損失 1,798百万円（前事業年度は経

常損失 1,456百万)、当期純損失 1,798百万円(前事業年度は当期純損失 1,473百万円)を見込んでおります。

なお、現時点において入手可能な開発状況や、パートナー企業であるノボノルディスク エー・エスから取得した情報等にもとづき、当社が判断したものであります。そのため、今後の進捗によりこれらの見通しとは大きく異なる可能性があります。

### 3. 事業予想の前提条件

当社の行う事業は、医薬品事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

#### ① 売上高

当社は現時点において販売承認前の段階であることから、開発進捗に伴い取得するマイルストーンが収益となります。治験が一定タイミングまで進捗したことや製造技術開発などにおいて、開発スケジュールに基づき達成可能と見込むマイルストーンをもとに計画をしております。

当事業年度において売上高は153百万円となり、前事業年度と比較して191百万円の減少となりました。これは、ノボノルディスク エー・エスとの独占的技術提携・ライセンス契約によるマイルストーン収入が、193百万円減少したことによるものであります。

#### ② 販売費及び一般管理費、営業損失

販売費及び一般管理費は2,118百万円となり、前事業年度と比較して314百万円の増加となりました。

販売費及び一般管理費は研究開発費が大半を占めており、主に心筋細胞製造にかかる試薬・資材費用及び、第I/II相治験(LAPiS試験)等であります。当事業年度においては治験の進捗に伴い、研究開発費1,659百万円(前期比 22.0%増)を見込んでおります。

また、その他経費においては主に、人件費及び専門家への業務委託費、オフィス・研究スペースの維持費であります。当事業年度においては管理体制強化に伴う人員の増加により458百万円(前期比3.3%増)を見込んでおります。

以上の結果、営業損失1,965百万円(前事業年度は営業損失 1,459百万円)を見込んでおります。

#### ③ 営業外損益、経常損失

営業外収益は、主に研究開発に対する補助金等を計上しており、当事業年度においては東京都の補助金を含む224百万円(前期比 15.2%増)を見込んでおります。

営業外費用は、主に新規上場に伴う株式交際費等を計上しており、当事業年度においては56百万円(前事業年度▲70.3%減)を見込んでおります。

以上の結果、経常損失1,798百万円(前事業年度は経常損失 1,456百万円)を見込んでおります。

#### ④ 法人税等合計、当期純損失

法人税等合計額は、0.1百万円となり前事業年度と比較して16百万円の減少となりました。この結果、当期純損失は1,798百万円(前事業年度は当期純損失 1,473百万円)を見込んでおります。

### 【業績予想に関する留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現状入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。また、創薬系バイオベンチャー企業の一般的なリスクについては、下記ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jpjx.co.jp/listing/others/risk-info/>

なお、当社は医薬品等の研究・開発・製造・販売を行っており、当社固有のリスクを踏まえた投資判断が必要となりますが、当社固有のリスク情報等については、「新規上場申請のための有価証券報告書」(Iの部)の「事業の内容」、「経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」、「事業等のリスク」、「経営上の重要な契約等」などの記載事項をご確認ください。

以上



## 2024年10月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2024年7月30日

上場会社名 Heartseed株式会社  
コード番号 219A URL <https://heartseed.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福田 恵一  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 高野 六月 TEL 03(6665)8088  
四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 -  
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年10月期第2四半期の業績 (2023年11月1日~2024年4月30日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年10月期第2四半期	153	-	△720	-	△719	-	△720	-
2023年10月期第2四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年10月期第2四半期	△58.69	-
2023年10月期第2四半期	-	-

- (注) 1、当社は2023年9月15日付で普通株式1株につき800株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。
- 2、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
- 3、当社は、2023年10月期第2四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2023年10月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2024年10月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年10月期第2四半期	4,965	4,549	91.4
2023年10月期	5,719	5,269	91.9

(参考) 自己資本 2024年10月期第2四半期 4,536百万円 2023年10月期 5,256百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年10月期	-	-	-	0.00	0.00
2024年10月期	-	-	-	-	-
2024年10月期 (予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年10月期の業績予想（2023年11月1日～2024年10月31日）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 四半期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	153	—	△1,965	—	△1,798	—	△1,798	—	△109.09

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年10月期2Q	20,195,200株	2023年10月期	10,952,000株
② 期末自己株式数	2024年10月期2Q	—株	2023年10月期	—株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年10月期2Q	12,272,457株	2023年10月期2Q	10,952,000株

（注）当社は、2023年9月15日付で普通株式1株につき800株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(重要な後発事象) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(2023年11月1日～2024年4月30日)における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響は収束しつつあり、社会経済活動の正常化に向けた動きが継続したものの、為替変動、不安定な国際情勢、原材料価格やエネルギーコストの高騰など、国内景気は依然として不透明な状況となっています。

日本の再生医療業界においては、2014年に施行された改正薬機法によって、再生医療への「条件及び期限付承認制度」が導入され、また承認審査期間の短縮や当局との事前相談に関する優先的支援などを提供する「先駆的医薬品等指定制度」が2019年に法制化されるなど、優れた再生医療等製品を逸早く実用化出来る仕組みが整っております。

このような状況のもと、当社は「再生医療で心臓病治療の扉を開く」をミッションとして、慶應義塾大学で創出された技術をベースに重症心不全の根本的治療法の開発を進めており、当期は主に臨床開発の実施に加え、低侵襲投与デバイスの開発などに注力しております。

当第2四半期累計期間における事業の概況としましては、虚血性心疾患に伴う心不全患者を対象とする他家iPS細胞由来心筋筋線の開胸投与による治療プログラム(HS-001)をリードパイプラインとして、開発を継続しております。冠動脈バイパス手術と併用する第I/II相臨床試験(LAPiS試験)を実施中であり、治験参加施設における患者のリクルートメントを継続しております。また、3月初旬に開催されました第88回日本循環器学会学術集会におきまして、治験施設の医師らにより当試験の良好な初期結果が発表されました。

一方、グローバル大手製薬企業であるノボノルディスク・エーエス社との全世界を対象とする独占的技術提携・ライセンス契約のもと、同社との製造技術開発の進捗に伴い、第1四半期会計期間にマイルストーン収入を計上しております。また同社と共に、患者にとってより負荷の低いカテーテルを用いた投与方法の開発について計画を策定し、現在は試作品における確認・検証等を進めております。

このような状況のもと、当第2四半期累計期間の業績は、売上高153,210千円、営業損失は720,081千円、経常損失は719,483千円、四半期純損失は720,225千円となりました。

なお、当社は医薬品事業のみの単一セグメントであるため、セグメント別の業績記載を省略しております。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

##### (資産)

当第2四半期会計期間末における資産合計は4,965,556千円となり、前事業年度末に比べ754,195千円減少しました。流動資産は4,292,364千円となり、前事業年度末に比べ735,812千円減少しました。これは主に現金及び預金が644,059千円減少したことによるものであります。固定資産は673,192千円となり、前事業年度末に比べ18,383千円減少しました。これは主に、減価償却費を計上したことにより有形固定資産が18,383千円減少したことによるものであります。

##### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は416,436千円となり、前事業年度末に比べ33,755千円減少しました。流動負債は235,573千円となり、前事業年度末に比べ8,489千円減少しました。これは主に国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)より受領した補助金等により前受金が71,456千円増加した一方、資産除去債務が取崩しにより43,800千円、未払金が支払により31,268千円減少したことによるものであります。固定負債は180,863千円となり、前事業年度末に比べ25,266千円減少しました。これは主に資産除去債務が21,110千円減少したことによるものであります。

##### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は4,549,120千円となり、前事業年度末に比べ720,439千円減少しました。これは四半期純損失の計上により利益剰余金が720,225千円減少したことによるものであります。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べて644,059千円減少し、3,944,059千円となりました。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、減少した資金は574,657千円となりました。主な内訳は税引前四半期純損失719,483千円を計上したことによるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、減少した資金は55,275千円となりました。主な内訳は資産除去債務の履行による支出53,108千円によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、減少した資金は14,498千円となりました。主な内訳は上場関連費用の支出11,364千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予測につきましては、事業提携の可能性など、現時点では業績に影響を与える未確定な要素が多いことから、適正かつ合理的な数値の算出が困難な状況と考えており、四半期ごとに実施する決算業績及び事業の概況のタイムリーな開示に努め、当期の業績予想は開示しておりません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年10月31日)	当第2四半期会計期間 (2024年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,588,118	3,944,059
貯蔵品	136,610	103,816
前渡金	36,630	93,390
前払費用	52,397	23,374
未収入金	17,310	58,323
未収消費税等	197,109	69,401
流動資産合計	5,028,176	4,292,364
固定資産		
有形固定資産	483,503	465,120
投資その他の資産	208,072	208,072
固定資産合計	691,575	673,192
資産合計	5,719,751	4,965,556
負債の部		
流動負債		
リース債務	6,008	5,259
未払金	118,885	87,617
未払費用	41,814	36,967
未払法人税等	2,851	2,505
前受金	19,533	90,989
預り金	11,169	12,233
資産除去債務	43,800	—
流動負債合計	244,062	235,573
固定負債		
リース債務	5,570	3,172
資産除去債務	186,494	165,383
繰延税金負債	14,065	12,307
固定負債合計	206,129	180,863
負債合計	450,192	416,436
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	8,171,732	7,163,951
利益剰余金	△2,964,803	△2,677,248
株主資本合計	5,256,929	4,536,703
新株予約権	12,630	12,416
純資産合計	5,269,559	4,549,120
負債純資産合計	5,719,751	4,965,556

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期累計期間 (自2023年11月1日 至2024年4月30日)
売上高	153,210
売上原価	—
売上総利益	153,210
販売費及び一般管理費	873,291
営業損失(△)	△720,081
営業外収益	
受取利息	23
補助金収入	2,000
受取手数料	18,343
雑収入	798
営業外収益合計	21,164
営業外費用	
支払利息	238
為替差損	8,963
上場関連費用	11,364
営業外費用合計	20,566
経常損失(△)	△719,483
税引前四半期純損失(△)	△719,483
法人税、住民税及び事業税	2,501
法人税等調整額	△1,758
法人税等合計	742
四半期純損失(△)	△720,225

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当第2四半期累計期間 (自2023年11月1日 至2024年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純損失(△)	△719,483
減価償却費	20,550
受取利息	△23
支払利息	238
上場関連費用	11,364
補助金収入	△2,000
為替差損益(△は益)	△372
前渡金の増減額(△は増加)	△56,760
前払費用の増減額(△は増加)	29,022
棚卸資産の増減額(△は増加)	32,794
未収入金の増減額(△は増加)	△41,012
未収消費税等の増減額(△は増加)	127,708
未払金の増減額(△は減少)	△31,268
未払費用の増減額(△は減少)	△4,846
前受金の増減額(△は減少)	36,789
その他	△11,039
小計	△608,336
利息の受取額	23
利息の支払額	△250
補助金の受取額	36,667
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△2,760
営業活動によるキャッシュ・フロー	△574,657
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△2,167
資産除去債務の履行による支出	△53,108
投資活動によるキャッシュ・フロー	△55,275
財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の返済による支出	△3,134
上場関連費用の支出	△11,364
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14,498
現金及び現金同等物に係る換算差額	372
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△644,059
現金及び現金同等物の期首残高	4,588,118
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,944,059

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。